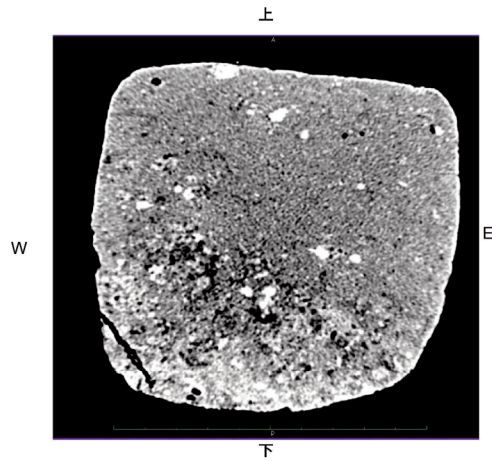
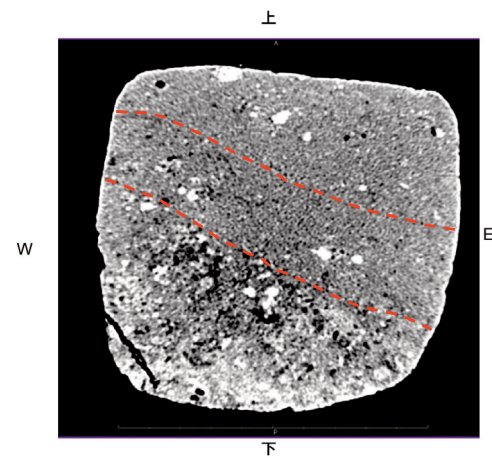


## 2.3.1 活動性評価(北西法面) K断層による地層の変形範囲の把握 (地層の堆積状況の詳細)

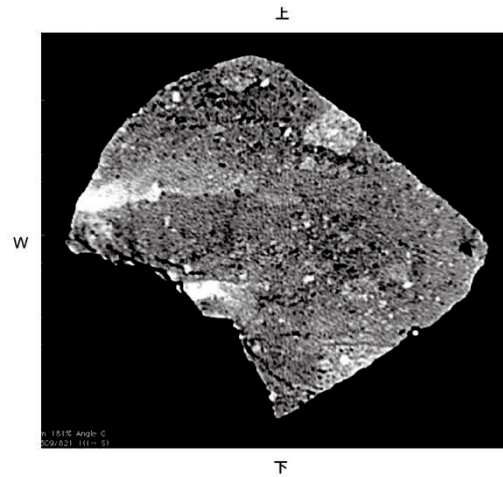
• K断層によって変形を受けたj層西側の地層については堆積構造が東に傾斜していることが確認されたが、K断層による変形を受けていないj層東側の地層及びk層についてはほぼ水平に堆積している状況がCT観察からも確認された。



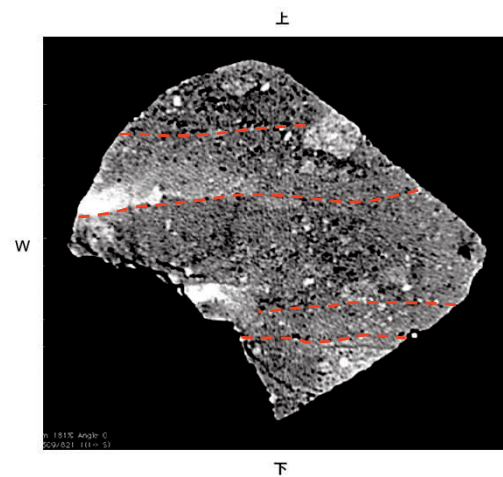
j-1 (K断層による影響を受けたj層西側)



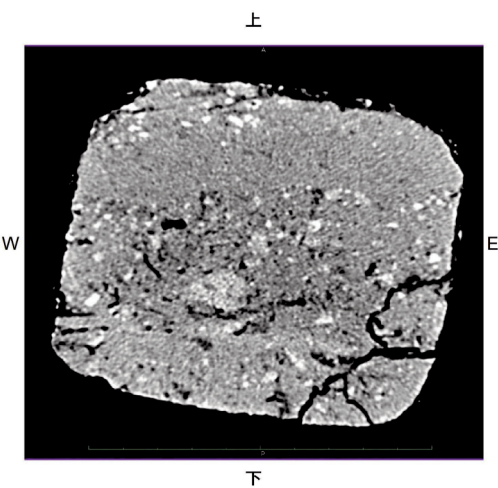
j-1 (K断層による影響を受けたj層西側)



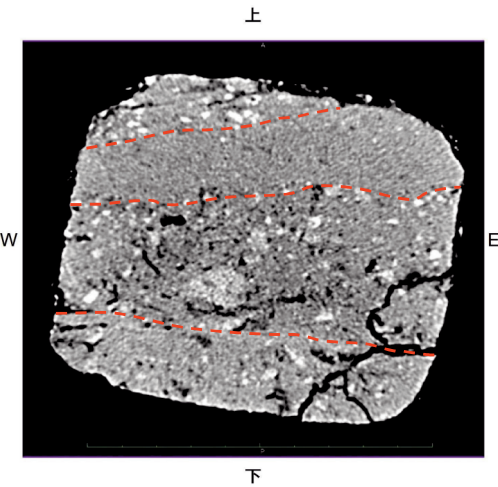
j-2 (K断層による影響を受けていないj層東側)




j-2 (K断層による影響を受けていないj層東側)



k-1 (K断層による影響を受けていないk層)



k-1 (K断層による影響を受けていないk層)

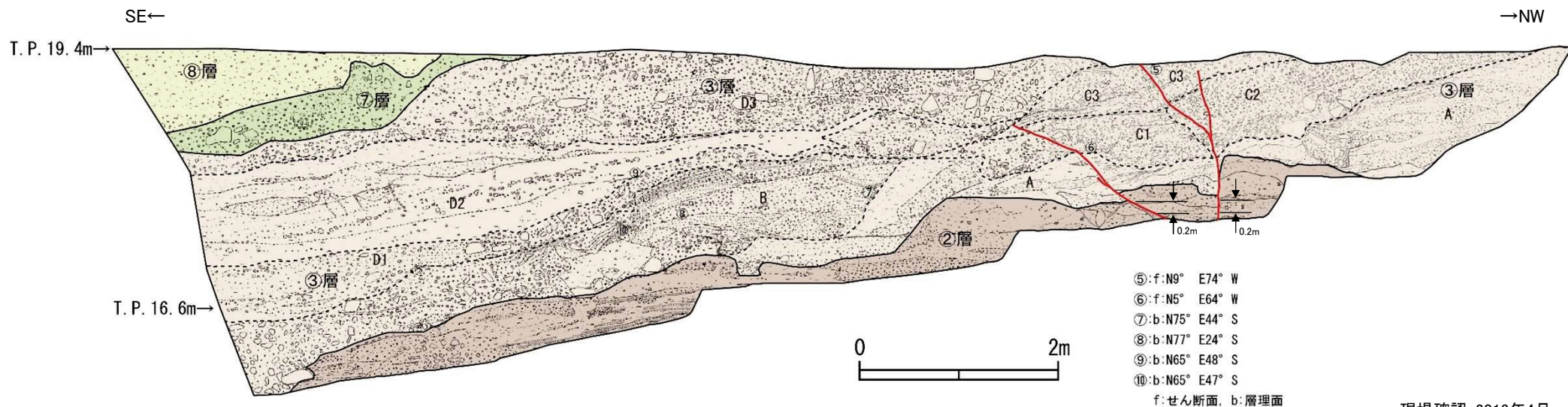
※試料はいずれも定方位で採取し、定方位を維持した状態でCT撮影を行った。  : 堆積構造

余白

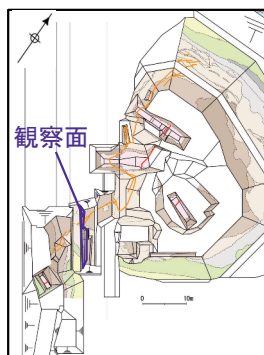
## 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット)

## 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット) (原電道路ピット東向き法面 スケッチ)

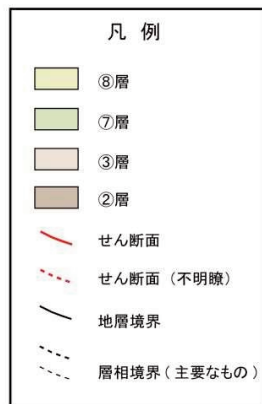
・原電道路ピット東向き法面で認められるK断層は、②層及び③層中のC層までの地層に変位を与えているが、その直上に分布する③層中のD3層は変位・変形を受けておらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。同法面では、K断層は数条に分岐しており、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.4mである。



現場確認: 2013年4月



調査位置図

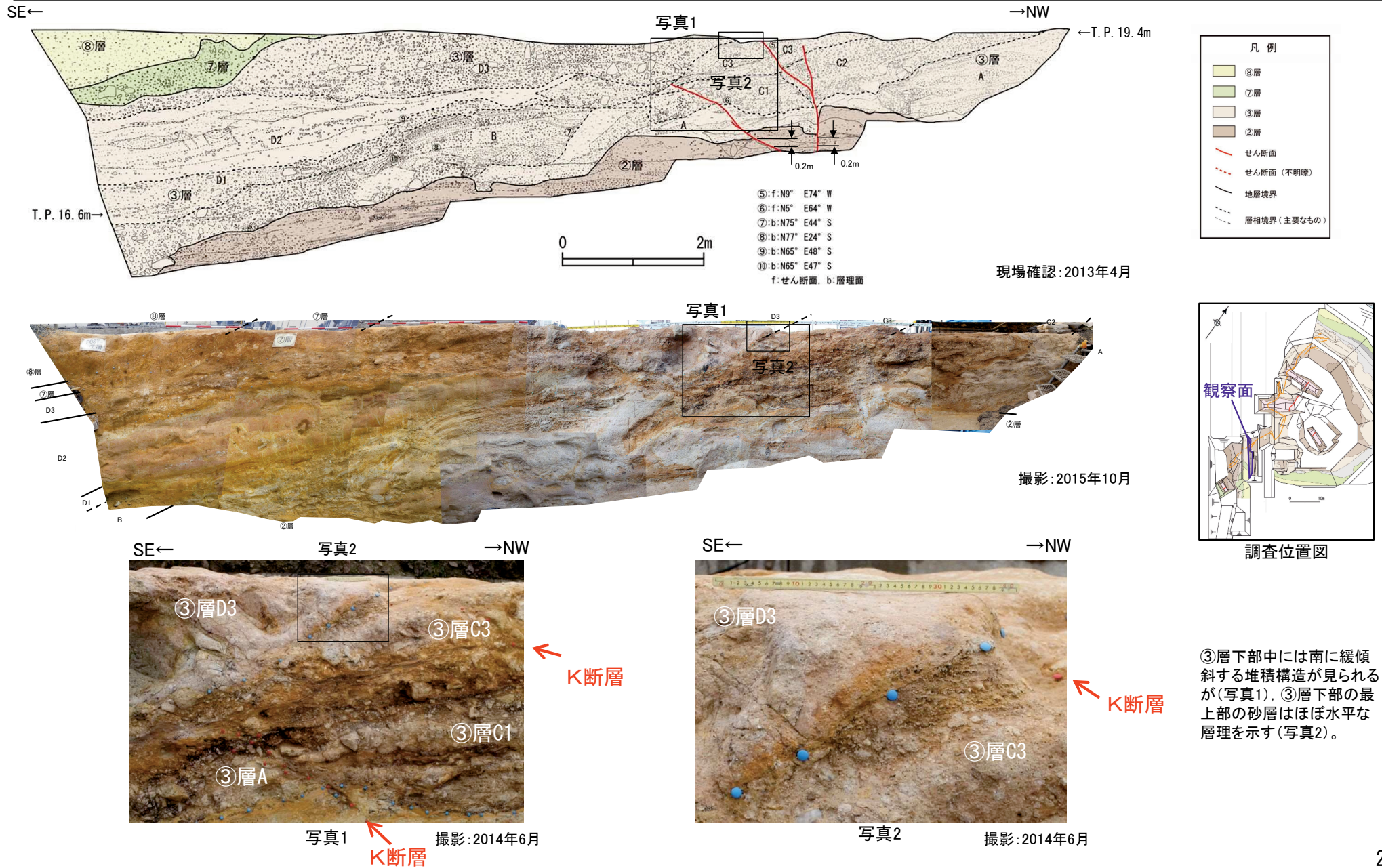


- ⑧層: 細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の亜角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟在する。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)~橙色(7.5YR7/6) 礫率7~40%程度で径3~40cm程度の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
- ③層 (C,D): 砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6) 礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A,B): 砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層: 細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~亜角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂~砂混じりシルトからなり、砂層をレンズ状に挟在する。



## 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット) (原電道路ピット東向き法面)

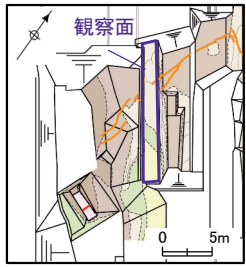
- 原電道路ピット東向き法面で認められるK断層は、②層及び③層中のC層までの地層に変位を与えているが、その直上に分布する③層中のD3層は変位・変形を受けておらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。同法面では、K断層は数条に分岐しており、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.4mである。
- 原電道路ピット東向き法面のスケッチと写真及びK断層が通過している付近の拡大写真を示す。





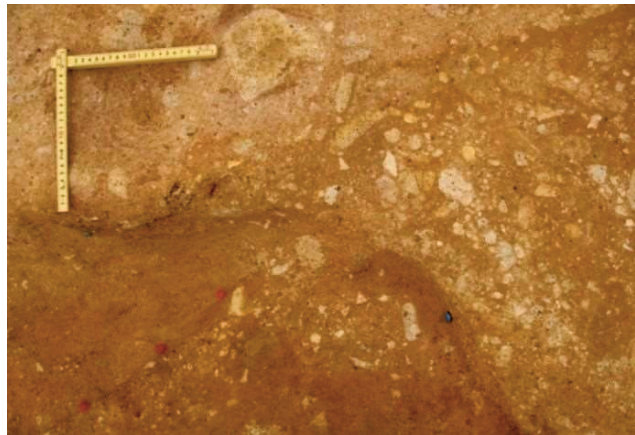
## 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット) (原電道路ピット島状頂盤部)

• 原電道路ピット島状頂盤部において、K断層は③層中のC層までの地層に変位を与えているが、その上位の地層である直上に分布する③層中のD3層は変位・変形を受けておらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。



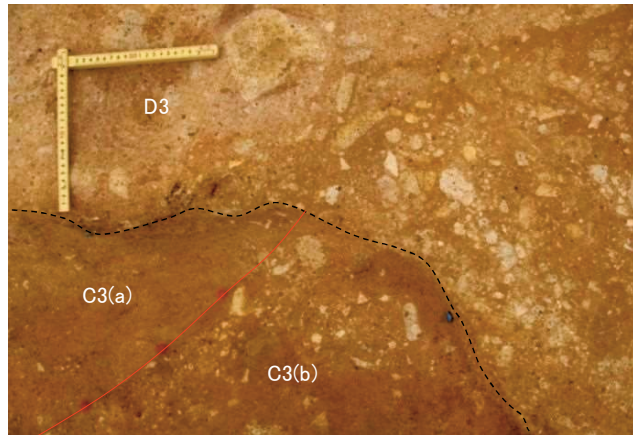
調査位置図

写真(拡大①)及びスケッチ



拡大①

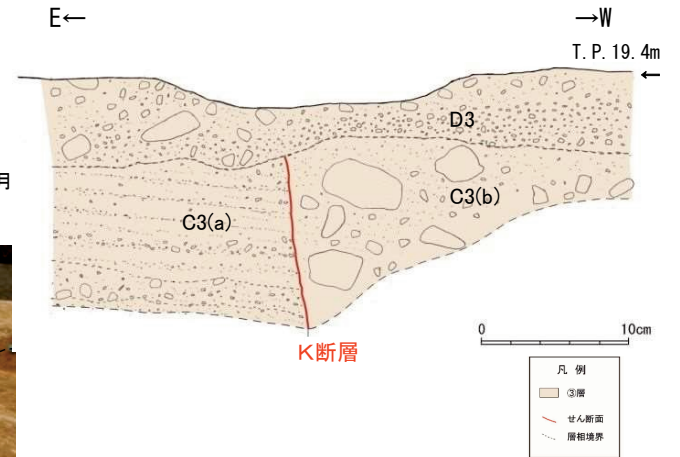
撮影:2014年5月



K断層

拡大①

撮影:2014年5月



C3層 (a): 礫混じりシルト質砂

明褐色を呈する。砂は細～中粒砂からなり、径3～10mm程度の亜角～亜円礫を含む。下部ほど礫率が高く、下位の砂礫とは漸移する。

C3層 (b): 砂礫

明褐色～橙色を呈する。礫率は15%程度である。径10～50mmの風化した亜角～亜円礫を含む。基質はシルト質砂からなる。

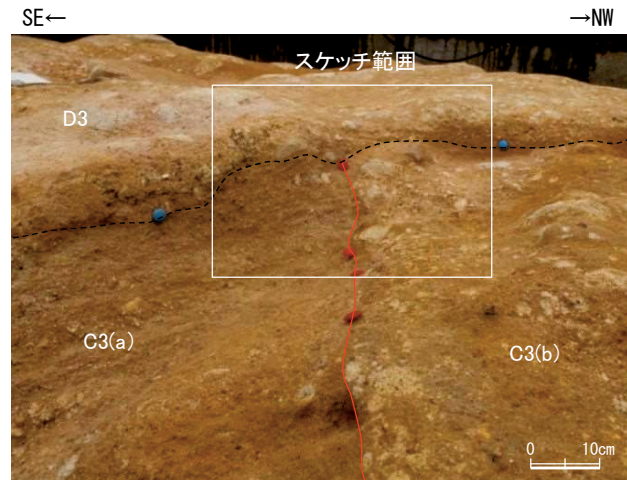
D3層: 砂礫

明褐色～橙色を呈する。礫率は20%程度である。径10～40mmの風化した亜角～亜円礫を含む。基質はシルト質砂からなる。



拡大①(側面から撮影)

撮影:2014年6月



拡大①(側面から撮影) K断層

撮影:2014年6月

現場確認:2014年6月

## 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット) 原電道路ピット③層の分布 (原電道路ピット付近の地質分布)

• D-1トレンチ擁壁撤去法面, 原電道路ピット及びふげん道路ピット付近に分布する③層は, D-1トレンチ入口南側法面まで連続して分布している。









展開図範囲図



### 2.3.2 活動性評価(原電道路ピット) (原電道路ピットとD-1トレンチ入口南側法面 ③層の対比)

- 原電道路ピット及びふげん道路ピット東法面に見られる③層中のD1層, D2層及びD3層は, D-1トレンチ入口南側法面まで連続して分布しており, 南側法面ではD1層, D2層及びD3層が⑤層に不整合関係で覆われている。
- 原電道路ピットの③層中のD1層, D2層及びD3層は, 層相の類似性からもD-1トレンチの③層に対比される。

地層名	地層区分	原電道路ピット		D-1トレンチ入口南側法面	
		写真	性状	写真	性状
③層	D3		<p>砂礫(浅黄橙色主体) 径1~3cmの礫(最大径25cm) を主体とし, 基質は砂からなる。</p>		<p>砂礫(浅黄橙色主体) 径2~5cmの礫(最大径50cm) を主体とし, 基質は砂からなる。</p>
	D2		<p>シルト質砂~礫混じり砂質 シルト(にぶい橙色主体) 部分的に礫が混じるが, シルト~中粒砂からなる。 風化の影響により斑状模様 を呈する。</p>		<p>礫混じり砂質シルト (にぶい橙色主体) 部分的に礫が混じるが, シルト~中粒砂からなる。 風化の影響により斑状模様 を呈する。</p>
	D1		<p>砂礫(橙色主体) 径1~3cmの礫(最大径15cm) を主体とし, 基質は砂からなる。 下位層を削り込んでいる。</p>		<p>砂礫(橙色主体) 径2~5cmの礫(最大径30cm) を主体とし, 基質は砂からなる。 下位層を削り込んでいる。</p>